

poco

ZEFIRO

カトリック桂教会広報誌

Vol. 25

2025年 復活祭号

編集・発行

カトリック桂教会広報部



見ないで信じる者は幸い ヨハネ20:29

聖トマスの懐疑

カラヴァッジオ (1571~1610)



復活という希望

担当司祭

一場

修

復活の主日、私たちは、ヨハネの復活物語（ヨハネ20・1-9）によって、再び復活の喜びを味わいます。

この物語の中で、ペトロの体験が次のように語られています。

「彼（シモン・ペトロ）は墓の中に入り、亜麻布が置いてあるのが見えた。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。」

亜麻布は、イエスの遺体を包んでいた布です。

復活は、一瞬の出来事ではありませんでした。イエスは、復活するために、死からのちに移るために、亜麻布の束縛を必死に解き、新たな歩みを始めるために、頭の覆いを取り除きました。

復活は、時間がかかることです。忍耐が求められることです。

時には、苦痛が伴います。墓の中で横になっていた方が、心地よいかもありません。

しかし今、私たちは、イエスと共に復活するように招かれています。時間をかけて復活するように励まされています。時間をかけて復活していくことこそ、希望を生きることです。希望の巡礼者として、ともに歩んでいくことです。復活とは、希望なのです。

私は、復活の月曜日に、京丹ブロックを離れます。2020年4月から5年間、京丹ブロック担当司祭として、皆様と歩んで来ました。京丹ブロックを去るにあたり、ブロックの皆様お一人一人に、心から感謝申し上げます。私たちには、出会う人すべてと分かち合うべきいのちが与えられています。復活の主からいただいたいのち、豊かないのちです。

復活という希望です。このいのちを、この希望を分かち合うことが、置かれた場所で、こつこつと分かち合うことが、希望の巡礼者として生きていくことだと思います。